

6. ボーリングコアの一次記載結果及び検層結果

本報告書に掲載する一次記載結果及び検層結果等については、コア解析グループ個別火山担当者及び気象庁（火山噴火予知連絡会事務局）が分担して執筆し、火山ごとに掲載した。掲載内容と執筆分担については、次のとおりである。

6.1. ボーリングコアの一次記載結果

(1) 和文報告書（ボーリング及び一次記載の概要）

和文報告書では、「1.コア掘削概要」において掘削地点や深度など、ボーリングの基本情報を示した。なお、掘削地点の住所については字や国有林班までの表記とし、掘削深度については10cmに満たない余掘り分は切り捨てて表示している。

掘削地点の位置情報（緯度・経度・標高）及び掘削深度については、資料3（本報告書p.401）に全地点分をまとめて掲載した。

また、「2.一次記載概要」において記載者や記載日に関する情報を示した。そのうえで、「3.一次記載結果」や「4.今回の掘削により得られた知見」において、岩相区分だけでなく、堆積物の成因や過去の噴火活動との対比、火山防災上の基礎情報となる噴火活動史に対する新たな知見が簡潔にまとめ、各コア試料の噴火史解明に対する重要性を概観できるようにした。さらに、「5.今後の予定」として、分析や学会発表の予定を記述した。

和文報告書の執筆については、「1.コア掘削概要」を気象庁が、「2.一次記載概要」から「引用文献」までを個別火山担当者（記載者）が担当した。

(2) 掘削地点及び概略柱状図

掘削地点については地図上にプロットして示し、また、一次記載柱状図（次項で説明）に関してそのエッセンスをまとめた概略柱状図を掲載した。

掘削地点及び概略柱状図の作成は、気象庁が担当した。

(3) 一次記載柱状図

一次記載柱状図は、原則縮尺100分の1で作成し、噴火活動史を読む上で重要な岩相区分が為されている。コア記載シートは統一を図ったが、柱状岩質の凡例やユニット対比の記述方法について火山毎に差異がある。

一次記載柱状図の作成は、個別火山担当者（記載者）が担当した。

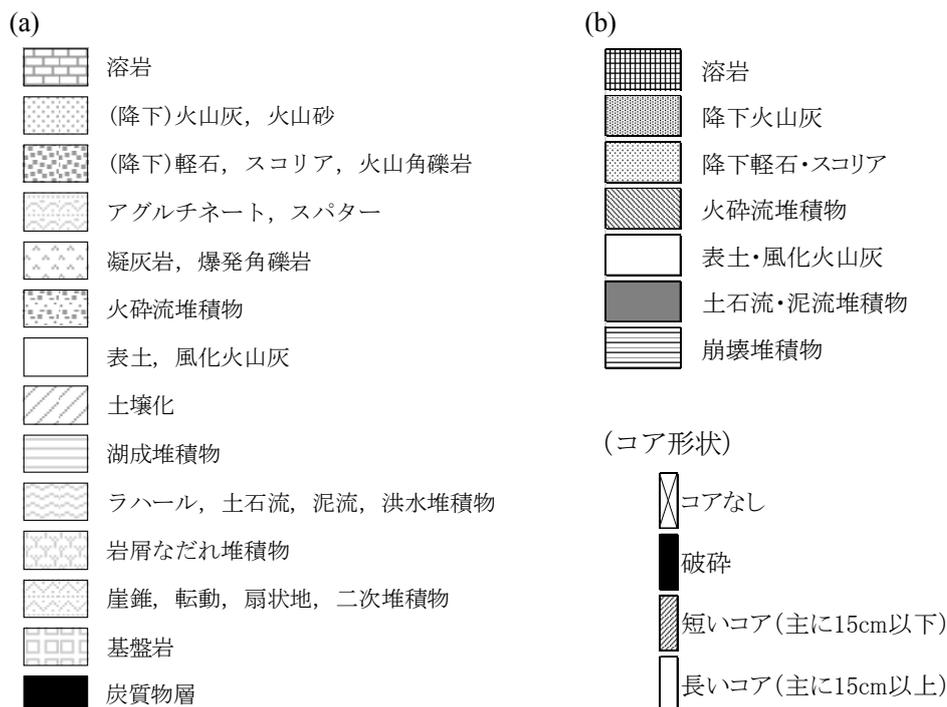


図 14. (a)概略柱状図及び(b)一次記載柱状図の凡例.

なお、一次記載は、コア試料に対する肉眼観察結果をもとにまとめられているため（一部には、採取試料に対する機器分析結果も反映されている）、噴火ユニットの対比や成因については、今後の詳細な分析に応じて、修正される可能性があることに注意が必要である。

6.2. 各種検層結果

温度検層結果は「温度」、電気検層結果は「見掛比抵抗」、PS 検層結果は「弾性波速度」に掲載した。また、ケーシング挿入状況、温度検層を実施した際の天気及び気温について記述した。

なお、本報告書付録 DVD には、報告書の内容全ての PDF ファイルを収録した。加えて、DVD のみに全地点全深度分のボーリングコア写真を収録した。ボーリングコア写真については、気象庁が実施した火山観測施設整備のうち掘削等を請負った応用地質株式会社から提出されたものを気象庁が一部加工して用いた。

(執筆担当：気象庁・産業技術総合研究所)

ここからは、各掘削地点のボーリングコアの一次記載結果及び検層結果について、順に示す。